

チェルノブイリの遺産：21世紀へ向けて

ユーリ・シチェルバク、ウクライナ特別全権大使



20世紀終わりから21世紀はじめにかけて人類が経験した一連の災厄のなかで、チェルノブイリ事故は特別な位置を占めている。チェルノブイリは、現代技術文明の歴史においてまったく新たな出来事であって、21世紀において、核惨事の問題がよりいっそう重要になることを示している。設計や想定を越えた未曾有の規模の災害が起きたという事実は、原発はまったく安全なシステムであると何十年にもわたって請け合ってきた、原子力産業界の学者や技術者の楽観主義や無責任主義を吹き飛ばした。

現代社会における新たな現象としてのチェルノブイリ事故の特徴は、「意図せざる」事態だったことであり、それは日常的なところで、ごく自然に突然に発生した。1945年の広島・長崎の原爆投下や2001年の米国でのテロ事件は、(軍隊、政治家、テロリストによって)周到に計画・用意された行為であった。一方チェルノブイリは、信じがたい状況が信じがたく積み重なったところで、何も意図しないところから突然現われたものだった。もちろん、チェルノブイリの背後には、偶然的な要素だけでなく、人類の脅威として現代の巨大技術が抱えている危険性があった。

事故から3カ月後の1986年7月、当時のソ連の最高権力機関である共産党中央委員会政治局は、事故の主要な原因が原子炉の欠陥であったと結論している。しかし、政治局の公式発表は、原子炉の欠陥に触れることなく、事故の原因を運転員に押しつけた。その理由は、ソビエト制度の偽善やゴマカシが明るみに出たり、ソ連国内で運転中の原子炉が運転停止に追い込まれることを当局者が恐れたからであった。不幸なことに、米国、英国、日本、フランスといった民主的な国においても、国家の安全保障や商業上・技術上の機密といったことを理由に、すべての原子力施設の機密扱いが正当化されている。

世界のエネルギー危機は、化石燃料の枯渇とともに21世紀中にいっそう深刻になり、第3世界を含む多くの国々が原子力開発に積極的に取り組もうとするだろう。技術的に遅れた国々での取り組みは、チェルノブイリのような事態をもたらすかも知れない。チェルノブイリのような事故は、ソビエト連邦が経験したように、その国家の政治的・経済的システムに破壊的な影響を及ぼす。

21世紀に向けてチェルノブイリが提起した問題のひとつは、テロ活動という観点からみた、原子力を用いる国家の安定性である。レバノン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、チェチェン共和国、イラクその他といった

内戦や武装勢力地域での原子力利用の危険性は言うに及ばない。大規模技術災害に向けて備えることは国際的な課題である。緊急時に迅速に国際的な規模で対応できる、国際緊急センターの設立が必要であろう。30万人の生命を奪った、南アジアの破壊的津波も、そうした問題の緊急性を示している。

チェルノブイリ事故は、核戦争が宣言されなくとも、核災害によって地域や国が丸ごと消滅してしまうモデルとなった。グローバル化にともない国際間、大陸間の相互依存が増加しているなかで、原子力、化学、生物、情報産業といった巨大科学技術での管理の失敗は、人類全体に破滅的な被害をもたらす可能性がある。21世紀における、国連、国家、市民社会の課題は、チェルノブイリの経験をふまえて、そうしたリスクを適切に評価することである。

<ユーリ・シチェルバク略歴>

1958年キエフ医科大学卒業、疫学博士。ウクライナ環境科学アカデミー会員、ハーバード大学ウクライナ研究所メンバー。シチェルバク博士が積極的に政治活動をはじめたのは、ソビエト時代の1989年にソ連最高会議議員に選出されてからで、議会ではサハロフ博士と一緒にいた。野党側のリーダーかつエネルギー・原子力安全小委員会の委員長として、チェルノブイリ事故やセミパラチンスク、ウラルでの核惨事の問題を議会ではじめて取り上げた。

シチェルバク博士は1988年、500以上のウクライナのNGOがまとまった組織である「ウクライナ緑の運動」（1990年に「緑の党」に発展）を創設し、そのリーダーとなった。1991年にはウクライナ環境大臣に任命され、ウクライナ国家安全会議のメンバーとなった。1992-1994年に駐イスラエル大使、1994-1998年に駐米国大使（1997-1998年は駐メキシコ大使兼任）、2000-2003年に駐カナダ大使を勤めた。1993年以来、「ウクライナ特別全権大使」の資格をもっている。1998-2000年、ウクライナ大統領国際問題顧問を勤め、2004年以降、ウクライナ最高会議国際問題顧問を勤めている。

シチェルバク博士は、散文、戯曲、詩、随筆に関する20冊以上の本、医学、環境、政治、歴史に関する300以上の論文やインタビューを発表している。1986年のチェルノブイリ事故の経験を基に、センセーショナルなドキュメンタリー小説「チェルノブイリからの証言」を発表し、旧ソ連の多くの共和国ならびに西側諸国で出版された。英語版が発表されたのは1989年だった。

シチェルバク博士は、ウクライナ作家同盟および映画・写真家同盟のメンバーである。その文学、医学ならびに政治家活動に対し、多くのメダルや賞を受けている。